

自治体ワーキンググループ（第1回） 論点整理

(1) ワーキング実施方針について

- 事務局よりワーキンググループの設立趣旨を説明。
- 本会議の資料及び議事録は原則として非公開とすることとして了承。

(2) ISO55001 要求事項への取り組みに関する討議（箇条4～6）

事前に事務局より配布されたヒアリングシートの回答内容に沿って、ISO55001 要求事項への取り組みに関する討議を行った。

1) 箇条4 組織の状況

- 経営課題を抽出する方法の具体事例として、SWOT 分析について確認。
- 各自治体の課題の整理状況について確認。外部的な状況については整理されているが、内部的なものについてはあまり整理されておらず、これから進めていかなければならない状況であると思われる。
- 各自治体における戦略的 AM 計画(SAMP)について確認。内向きの SAMP と対外的な SAMP に分かれているが、それら二つを合わせて実施することが必要であることを確認。4 章では内部と外部の課題を連結させて進めていく必要がある。
- 公共事業インフラの総合計画の策定状況に関して確認。関連して、ストックマネージャー制度について確認。人かカネのどちらかは確保していかなければならない状況において、情報源をどう確保するのかというのは課題であることを確認。
- 事務局より、事業管理計画について説明。

2) 箇条5 リーダーシップ

- 各自治体の AM に関する方針について確認。事例として運営方針がうまくまとめられていること、またシステムの方針なども加えるべきであることを確認。

3) 箇条6 計画

- 各自治体における施策の優先度について確認。予算や補助金の考慮、長寿命化計画における最低限確保すべき施設の分類と重要度について確認。耐用年数や技術的な向上を考慮した施設管理計画の考え方の事例について確認。
- ISO55001 のなかではどのような意思決定の基準を持たなければならないという記述はないが、基準が明文化されているかということが重要であることを確認。
- 目標は部門ごとに決めていくことが重要であり、大きな目標と小さな目標を立てて PDCA を回していく必要があること、また老朽化リスク以外への対応、システムについての計画が必要であることを確認。
- 取り組み事例としてワーキンググループの実施について確認。

(3) その他(意見)

- ISO55001 の認証やアセットマネジメントをやることにより、組織の効率化とリスク対応ができる等のメリットが出ることをきちんと整理していただきたい。
- それぞれの自治体でどこが強くどこが弱いのかということを自己分析できるとよい。

自治体ワーキンググループ（第2回） 論点整理

(1) ユーザーズガイド改定内容に関する確認(意見)

- ・ ユーザーズガイドはポジティブな内容としてまとめていただきたい。
- ・ アセットマネジメントの導入にはワークショップが効果的であることを記載して欲しい。
- ・ 維持管理のみではなく、雨水管理も含めた取組みが考えられることなども記載して欲しい。

(2) IS055001 要求事項への取組みに関する討議（箇条7～10）

事前に事務局より配布されたヒアリングシートの回答内容に沿って、IS055001 要求事項への取組みに関する討議を行った。

1) 箇条7 資源

- ・ 資源については、人事や一般会計等との関係もあるため自分たちだけで決められない部分もあることを確認。資源の確保について認証の立場からの考え方を確認（資産の更新計画、投資計画（予算）とのリンク、人の補充計画（バックアップ体制、ローテーション）、緊急時の対応）。
- ・ 各自治体における資源に関する取組み状況を確認。事例として、業務費に係る職員数の推移イメージの図を確認。
- ・ 各自治体における認識に関する取組み状況を確認。内部監査の実施による認識向上、目標の設定と評価を通じた認識の向上を確認。また、各職員がすべての IS055001 の項目を理解する必要はなく、それぞれが何をしなければならないのかを理解してもらうことが必要であることを確認。
- ・ アセットマネジメントに関する文書については、目標やリスク等に関する文書を整理するとともに、その他に工事の仕様書や監督員のマニュアル等、アセットの建設を含めた、現在使用しているすべての文書が対象となることを確認。なお、すべてを自前で持っている必要はなく、業者が持っていて構わないことを確認。
- ・ 事務局より、全国データベースの基本的な考えについて説明。

2) 箇条8 運用

- ・ 運用の計画と管理では、業務プロセスとして、アセットマネジメントに関する計画や是正処置を行うための決まった手順や簡単な概念が決定されており、その上で判断する場合に必要な管理基準が定められている必要があること、また現場サイドだけでなく、中期経営計画はどのように見直しを行いますかということも含まれることを確認。
- ・ 変更管理で対象とするのは、アセットマネジメント目標の達成に影響を及ぼす変更であり、設計変更や契約変更が該当し、アセットマネジメントの管理基準の変更もこれに当たることを確認。
- ・ ヨーロッパと日本では、責任分界点の違いが根本にあることを確認。

3) 箇条9 パフォーマンス評価

- ・ 各自治体におけるパフォーマンス評価の取組み状況について確認。

4) 10章 改善

- ・ 不適合や不具合、予防処置の考え方について討議。

自治体ワーキンググループ（第3回） 論点整理

(1) ユーザーズガイドの改定方針（箇条4～6）

「下水道分野における IS055001 適用ユーザーズガイド(案)」の素案をもとに、改訂方針について討議を行った。

- ・ 既存指針等と規格要求事項との対応関係について討議 → 引用すべきものは引用し、関連するものは末尾に示すなど、書き方を考慮する。

1) 全般

- ・ 要求事項の小見出し（①…など）について討議 → 記載方針を明確にしたうえで、書きぶりを含めて改善する。
- ・ 解説の方法について討議 → 要求事項の概要を示した後に、個別の解説を行う。概要には要求事項の意味・意義を含める。また、単に要求事項を満足するために解説するのではなく、アセットマネジメントシステムを構築するために何が必要なのかを心がける。
- ・ What の解説と how の解説を明確に分ける必要があるかを討議 → 明確に分けることはできないため、分ける必要はない。
- ・ 具体事例として示している自治体名は原則として伏せるものとする。

2) 箇条4

- ・ 外部及び内部の課題に関して討議 → 課題の項目を網羅した一覧表を作成する。なお、内部の課題については、どこまで掘り下げるべきかを考慮する。
- ・ 組織目標とアセットマネジメント目標の整合についても事例を追加する。
- ・ ニーズと要求の用語の扱いについて討議
- ・ 取り組み優先度の決定基準について討議 → 法令、安心・安全は最優先であり、シーリング（概算要求基準）も基準と考えられる。考え方をできる限り見える化させる必要がある。目標とリスクとコストによって決めているという、言い方でもよい。
- ・ 業務フローの扱いについて討議 → 本箇条ではAM全体の枠組みを整理したフローを対象とする。
- ・ SAMP が何かという疑問に十分に回答できていないため、改善する。

3) 箇条5

- ・ 箇条5.1については、IS055001の中で重要な部分であるため、わかりやすく説明する。

4) 箇条6

- ・ リスクマネジメントに関して確認 → リスクマネジメントに関しては、IS031000に基づいた解説とする。また、箇条6.1にて解説し、箇条6.2ではこれを参照する形に変更する。経営リスクについては箇条8.3にて扱う。

(2) その他

- ・ 事業管理計画と IS055001 との関係について確認

(1) ユーザーズガイドの改定方針（全体）

「下水道分野における IS055001 適用ユーザーズガイド(案)」の素案をもとに、改訂方針について討議を行った。

1) 全般

- カタカナ語については、極力日本語、極力わかりやすい言葉を選択する。
 - モニタリング：日常的に使っているため、「モニタリング」を採用
 - インシデント：解説を行い、「インシデント」を採用
 - ステークホルダー：「関係者」を採用
 - アウトソーシング、アウトソース：「外部委託」を採用
- 図で見にくいものについては改善する。
- ユーザーズガイドは資料編と合冊とする。

2) 導入部

- 絵も含めて、興味を持たせるように見せ方を工夫する。
- メリットの表現について討議 → 分割して記載されているので、冒頭にまとめる。また、課題も含めて記載すべき。事業管理計画と同様に課題やメリットを人、モノ、カネに分けて整理する。
- 資料編に添付されているアセットマネジメントマニュアルや内部監査マニュアルなどについても導入部で紹介する。
- アセットマネジメントについて、計画的維持管理の延長と捉えられている場合がある。改築更新や維持管理だけでなく、浸水対策と改築更新の投資判断や普及促進と改築更新との投資判断などもアセットマネジメントに含まれるということを導入部で紹介する。
- 用語の定義にアセットマネジメント及びアセットマネジメントシステムを追加する。
- 事務局より、AMに関する今後の展開について説明。

3) 箇条4

- SAMP と事業管理計画(仮称)との関係について討議

4) 箇条5, 6

- 箇条5.1②（整合性と統合）に関して討議 → 事例を挙げる等により分かりやすく改善。
- 箇条6.2.2①のうち「アセットマネジメント計画を他の計画と統合する」について討議
- 中小都市でもアセットマネジメント計画を全て作成する必要があるのかについて討議

5) 箇条7

- アセットマネジメント計画を実施するための資源やアセットマネジメントを改善するための資源について確認。
- 力量について確認。自治体では力量を定めることが難しい点を言及。
- 規格が要求している文書化情報の一覧を示す。

6) 箇条8

- 用語、業務プロセスについて確認 → 原文ではプロセスとなっており、プロセスには処理工程などが含まれるが、ここでは業務プロセスでも問題はないと考えられる。
- 業務プロセスの見える化については、要求事項ではないため、推奨事項として表現する。
- アセットポートフォリオに直接的に働きかけない活動について討議

7) 箇条 9, 10

- 解説にパフォーマンスについての説明を追加
- AMSの有効性に関するパフォーマンス評価について討議 → 指標の改善（目標の達成）でもよく、モニタリングでも評価できるため、両方を含むように修正。
- リスクの軽重観点に基づく監査適用範囲について討議 → 自由度があり、活用の幅があるということに記載する。
- マネジメントレビュー項目のうちアセットマネジメントに関する活動の範囲を明確にする。

8) 導入手順、資料編

- 全体的な流れとしては、まずアセットマネジメントやアセットマネジメントシステムが必要であること、またそのときの教科書として ISO55001 があること、さらにその要求事項を解説した後、ISO55001 の認証を取得する場合の手順が示されているといった構成とする。
- ギャップ分析資料については、具体例を挙げるなど改善する。
- マニュアルについても分かりやすい表現に改善する。